

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
 担当課長名：渡辺 学

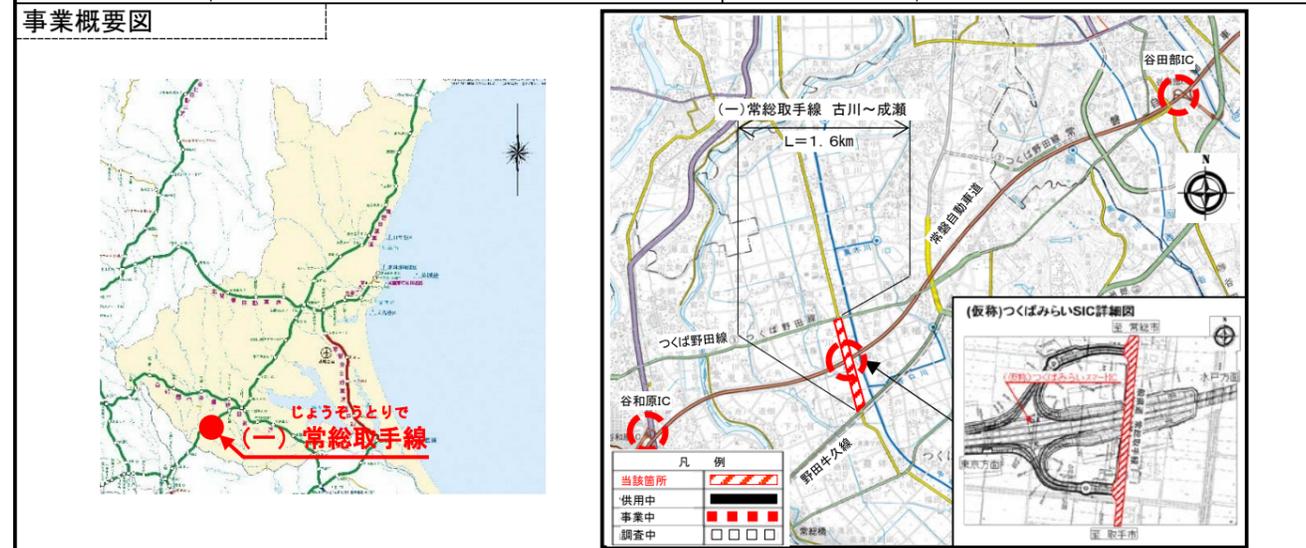
事業の概要

事業名	スマートICアクセス 一般県道 常総取手線	事業区分	地方道	事業主体	茨城県
起終点	自：茨城県つくばみらい市古川 至：茨城県つくばみらい市成瀬	延長	1.6 km		

事業概要
 一般県道常総取手線は、常総市水海道橋本町の国道294号から取手市白山八丁目の国道294号に至る路線であり、つくばみらい市を南北に縦断し、沿線地域住民の日常生活を支える重要な役割を担っている。当該区間は、主要地方道つくば野田線と主要地方道野田牛久線を結び、常磐自動車道（仮称）つくばみらいスマートICへのアクセス機能を有するものである。

事業の目的、必要性
 常磐自動車道 谷和原ICに接続する国道294号は、IC利用交通や市街地の交通集中により混雑が発生しており、市民の移動や企業活動に支障となっていることから、令和5年度に完成が見込まれる（仮称）つくばみらいスマートICに合わせて当該事業の整備を行い、混雑区間の交通転換を促し、周辺道路の混雑緩和を図る。

全体事業費	12億円	計画交通量	9,600台/日
-------	------	-------	----------



関係する地方公共団体等の意見
 つくばみらい市から（仮称）つくばみらいスマートICと合わせて早期整備の要望をされている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 学識経験者意見聴取の結果、新規事業化は妥当であると評価。

事業採択の前提条件
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている。
 ・地元自治体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用 11億円 （事業費：10.1億円 維持管理費：1.2億円）	総便益 16億円 （走行時間短縮便益：1.3億円 走行費用減少便益：1.1億円 交通事故減少便益：1.6億円）	基準年 令和元年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2 (交通量 -10%)	B/C=1.4 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.3 (事業費 +10%)	B/C=1.5 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間 +20%)	B/C=1.4 (事業期間 -20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	交通の転換により、周辺道路の混雑が緩和 【交通渋滞の緩和】 ・渋滞損失時間が8.1万人時間/年減少 ・常磐自動車道 谷和原ICに接続する国道294号のIC利用交通や市街地の交通集中による渋滞が緩和。 ・谷和原IC出口における料金所からランプまで約1km以上の渋滞が緩和。	
		事故対策	◎	・市街地に流入していた交通が転換され、交通の安全や良好な生活環境が確保。	
	社会全体への影響	歩行空間	○	・歩道が整備されることにより、歩行者の安全な通行が確保。	
		住民生活	◎	・つくばみらい消防署から三次救急医療施設である筑波メディカルセンター病院までの所要時間が約5分間短縮され、救急患者の負担軽減や救命率が向上し、医療サービスの向上が期待される。	
		地域経済	◎	・高速道路へのアクセスが向上することにより、輸送の効率化が図られるため、工場の規模拡大や農業の生産規模拡大等が期待される。	
		災害	○	・第2次緊急輸送道路のネットワークが強化。	
環境	—	・注目すべき影響はない			
地域社会	○	・中心市街地及び工業団地へのアクセス向上に寄与することから地域の活性化が期待。			
事業実施環境	○	地元市（つくばみらい市）から早期整備の要望を受けている。			

採択の理由

事業主体である茨城県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.4と便益が費用を上回っており、事業の採択の前提条件が確認できる。
 また、（仮称）つくばみらいスマートICと常総取手線の一体的な整備により、混雑区間の交通転換を促し、周辺道路の混雑緩和が図られることから、企業活動の更なる発展や地域経済への効果が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上により、本事業は令和2年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。